

# 全国協議会 ニュース

2013年3月1日発行 第249号

発行所  
特定非営利活動法人  
全国骨髄バンク推進連絡協議会  
〒101-0031 東京都千代田区東神田1-3-4  
KTビル3F  
TEL.(03)5823-6360  
FAX.(03)5823-6365  
発行責任者:中野勝博  
http://www.marrow.or.jp/  
E-mail:office@marrow.or.jp

郵便振替口座  
00150-4-15754  
銀行口座  
三井住友銀行 新宿通支店  
普通 5666655

## 追悼・市川團十郎会長

### どうぞ、安らかに

どんなに病状が思わしくなくとも、新たな治療に挑む時「それで、いつ仕事に戻れますかね」と、いつも飄々として病魔に立ち向かっていった團十郎さん、二度の移植という過酷な治療を乗り越えて、お元気を回復して下さったのに、帰らぬ人となつてしまいました。この悲しみをどう言い表したらよいかわかりません。

が創始の歌舞伎十八番の役はほとんどが荒事、激しい演技は團十郎さんご本人も「体重が一日で2キロ減りますから」とおっしゃっていたのを思い出します。移植した患者さんが、あんなことができないなんて、と思うと同時に、この舞台を昼と夜に1ヵ月休みなして演じ続ける役者というお仕事に、少し心配な気持ちがあつたのも事実です。

全国骨髄バンク推進連絡協議会の会長をお引き受けいただいたと、2年前に大阪・松竹座の楽屋にお邪魔させていただきました。その際「私のようなものでお役に立てるならば」とご快諾をいただきました。その優しいお人柄とおおらかな笑顔はいつも私のまぶたによみがえつてきます。会長としてのご活躍は今年からが本格的になるはずで、恒例の『ボランティアの集い』も團十郎さんとご相談して日程を調整していました。その矢先に、このような悲しい状況を受け入れなくてはならないことになってしまいました。



京に帰って入院、お見舞いにおうかがいしようとしたのですが、ついにお見舞いできない状況にはなりません。二月三日、永眠。

團十郎さん、もうつらい闘いをすることはありません。どうぞ、安らかに眠りください。でも、憎むべきは病魔です。一日も早く、白血病なぞを恐れなくてよい世界がくるよう、会長の遺志を継いで私たちが一所懸命に努力していくことをお誓い申し上げます。決して無間地獄を彷徨うことなく病気を克服できる日が来ますように、心よりお祈りいたします。合掌。

副会長 野村正満

### 市川團十郎さんを偲んで

市川團十郎さんのご逝去、慎んでご冥福を申し上げます。私は、白血病患者です。骨髄バンクのドナーさんから移植を受け、今を与えられ生きることができています。ちょうど2年前の秋、全国骨髄バンク推進連絡協議会のイベントで、市川團十郎さんの歌舞伎公演に招待して頂きました。團十郎さんの力強い舞台に感動し、私も生かされていることに感謝し、一杯涙張ろうと、そのとき改めて思いました。また、直接お会いしてお話したときの、優しくあたたかな雰囲気、今でも忘れることができません。

今でも悲しい気持ちでいっぱいですが、團十郎さんがお亡くなりになったとき、同じように移植を受けた友人と話をしました。今、私たちに与えられていることは、同じく移植を受けた人間として一杯、与えられた命を生きることでないかと思っています。今、まさに闘病中の方々にとつても、團十郎さんの病との闘いは、強い励ましになっています。 (匿名患者)

### 厚生科学審議会ヒアリング いまだ遠い理解への道のり

昨年末に、委員を大幅に入れ替えて再開された厚生科学審議会疾病対策部造血幹細胞移植委員会の2回目は、1月28日に、法施行に向けた関係団体からのヒアリングという形で行われました。当協議会と「血液情報広場つばさ」の3団体が招集されました。全国協議会からはまず、フォーラムにも参加して下さったさい帯血移植を受けた元気がなった長谷川誠さん(三重県在住)が、自身の闘病時に地方であるがゆえに情報収集、病院選択等が大変だったことを話され、その後、野村副会長が患者とドナーの視点に立った法の執行を目指すと、

「さい帯血国際患者支援の会」の3団体が招集されました。全国協議会からはまず、フォーラムにも参加して下さったさい帯血移植を受けた元気がなった長谷川誠さん(三重県在住)が、自身の闘病時に地方であるがゆえに情報収集、病院選択等が大変だったことを話され、その後、野村副会長が患者とドナーの視点に立った法の執行を目指すと、

### 東日本大震災被災者支援基金

1月21日～2月20日

越田 光重	現金	3,000円
越田 光重	現金	3,000円
(敬称略)		

寄付受入 合計 11,745,536円

給付実績 46件 合計 7,962,309円

●郵便振替 (通信欄に震災支援と記載)  
特定非営利活動法人 全国骨髄バンク推進連絡協議会  
00150-4-15754  
●銀行の場合  
特定非営利活動法人 全国骨髄バンク推進連絡協議会  
ゆうちょ銀行 008店 普通 4799951  
※2011年4月に開設しました東日本大震災被災者支援基金は、2013年3月31日で終了いたします。

### 公開フォーラム開催の意義

過去、全国協議会として公開フォーラムは幾度となく主催してきましたが、古くは「骨髄バンク公開フォーラム」その後さい帯血バンクNWとの連携で、「合同公開フォーラム」と題して、時宜に見合ったテーマ、検討課題を関係者を一堂に会するという本来の趣旨に則り、回を重ねてきた訳です。

とりわけ直近のフォーラムでは、関係機関の共催の理解が得られず、全国協議会単独



開催でしたが、昨年9月の法制定を受けての今回のフォーラムは非常に重要な意味合いを持つものでした。今後、今年の秋口を目前に法施行の枠組みを決めるための議論が各機関において、特別委員会として発足し、活発に議論されていることから2013年明け1月の開催はタイミング的にも重要でした。今後の争点は、実際の新しい枠組みを決定する、厚労省主管の厚生科学審議会造血幹細胞移植委員

会での議論に、全国協議会として主張するポイント、すなわち患者支援の視点、適切なドナープールの確保、望ましい移植バンクシステム構築、開かれた治療成績・情報開示などの観点を盛り込んだ内容として、『実のある』法律となるように見守りながら、監視し続ける、発言し続けることなのです。そうした観点、趣旨から今回のフォー



### 第6回公開フォーラム

「患者さんに最短で最適な医療を提供するために  
～法施行後の新たな造血細胞移植医療の在り方を問う～」

2013年1月20日(日) TKPスター貸会議室上野ANNEX

- ◆基調報告  
「新法を活かすアクションプランと課題」  
- 新しい法律の解釈と、施行に向けて  
- 移植医療現場の立場から  
- 患者・ドナー視点から
- ◆第1部  
「新法制定後の造血細胞移植医療」
- ◆第2部  
「移植患者さんならびにドナーを全力でサポートするために」



# ブロックセミナー開催



九州

九州ブロックセミナーが2月3日に福岡で開催され、朝9時開始にもかかわらず6県8団体から33名の参加がありました。

野平理事の欧州視察報告には皆驚きと感動で1時間があつという間でした。骨髄移植と、末梢血幹細胞移植の割合が日本と逆であることに多くの参加者が驚いていました。医学的な質問には沖繩の上江洲代表が回答し、講演は有意義なものでした。

各地区の活動報告があり、これからは法整備化のもとで、県と日赤に積極的にアプローチをして行きたいとのことでした。

最後に、協議会設立当初からボランティア活動に関わってきた福岡の田中幸一氏を鹿児島牧師が紹介し、これまでの功績を讃えました。福岡の皆さんのおかげで、前夜の懇親会から当日のセミナーまで大盛況のうちに終わることができました。ありがとうございました。(東恩納)

北海道  
2月16日、札幌市社会福祉

## 心からのご寄付に感謝申し上げます

1月21日～2月20日

株式会社 ユナイテッドスペース	現金	11,550円
豊島区明るい社会づくりの会	現金	100,000円
鈴木 純子	現金	1,340円
飯島 孝枝	現金	2,340円
星野 道子	現金	1,000円
飛田 行康	現金	10,000円
塩谷 圭	現金	1,000円
鈴木 純子	現金	1,340円
千葉 充子	現金	5,000円
佐々木 智子	切手	1,520円
佐々木 智子	書き損じ葉書	91枚
羽深 藍	書き損じ葉書	172枚
匿名	現金	5,000円
匿名	現金	1,000円
匿名	現金	2,000円

### ●白血病患者支援基金

ブルデンシャル生命保険 株式会社 (自販機)	現金	274円
株式会社 クスリのアオキ	現金	10,335円
株式会社 天山	現金	28,314円
あんがいおまる一座	現金	5,370円
嶋津 桂子	現金	3,000円

### ●佐藤さち子患者支援基金

オオタ シゲマサ	現金	5,000円
MSプレイヤー一同	現金	5,000円

### ●志村大輔基金

ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社	現金	7,588,863円
志村 哲夫	現金	1,000,000円
後藤 幸子	現金	10,000円
築瀬 知雅子	現金	10,000円 (敬称略)

### 活動資金の援助をお願いします

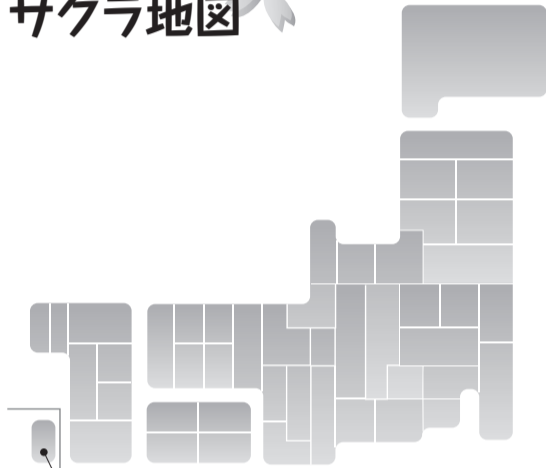
銀行口座 三井住友銀行 新宿通支店  
普通 5666655  
郵便振替口座 00150-4-15754  
特定非営利活動法人  
全国骨髄バンク推進連絡協議会

### 確定申告の季節です

全国協議会は国税庁より「認定NPO法人」として認可されていますので、私どもへのご寄付は、寄付金特別控除の対象となります。

4年前に「骨髄移植1万例、さい帯血移植5000例突破」を記念して行われた全国リレー植樹のスタートを切ったのは、沖繩の那覇市でした。いつもなら、桜は1月下旬から咲き始め、今年も市内の桜の名所である与儀公園や漫湖公園では2月中旬に「さくらまつり」が行われました。ところが、咲いているのはごくわずか、数輪しか花をつけていない木が多く、全く花のない桜も少なくありません。咲いている木も例年の1割程度の花の数です。

## ありがとうサクラ地図



沖繩

園の桜の木を見ると、大きく枝を折って剪定されたばかりの木、真新しい鳥居型の支柱が目立ちます。激しく木々が損傷を受け、手入れをされたのがわかります。もちろん、果樹などの農業も大きな影響がありました。では、県庁裏庭に植樹したわれらのカンヒザクラ(寒緋桜)はどうだったのでしょうか。無事でした。大きく元気に育っています。でも、花はつけていません。今年もまだ花をつけることはありません。(野村)



岐阜のドナー宅に植樹されたサクラ(2012年)

## 残念、桜の敵は台風

年、沖繩には大きな台風が何度も直撃した台風の当たり年でした。沖繩の会の上江洲代

## 白血病患者支援自動販売機ができました!

白血病患者を救おう!と各所に設置していただいている白血病患者支援募金箱。皆様からの募金を患者、ドナー支援活動に有効に使わせて頂いております。第2弾として、C.C.レモンやBOSS等が並ぶSUNTORYでお馴染のサントリーフーズ株式会社のご協力により、「白血病患者支援自動販売機」ができました。ドリンクを飲むと売上げの一部が基金に寄付されます。



(イメージ)

ただいま、支援自動販売機の設置先を募集中です。詳細については全国骨髄バンク推進連絡協議会事務局までお問合せ下さい。

求む!  
ありがとうサクラ便り

表によると「30年ぶり」という激しさだったようです。公

成長を見守っている気分です。今年度は全地域でのサクラ便りをお知らせできればと思っております。短い便りでも結構ですので、ぜひお写真と共に

沖繩のサクラは台風が痛めつけられて今年の花がつかないようですが、その他の地域に植樹された110本のサクラも、灼熱の暑い夏、凍てつく寒い冬を耐え越えて、貝殻虫にも負けずにスクスクと育ち、昨年あたりから各地での開花だよりが寄せられるようになりました。ゴボウのように細かった苗が幹らしくなり、腰ぐらいの高さまで私達の背丈を超えて、しかも小さな花までつけるようになった……子どもや孫の

### 骨髄バンクの最新情報をお知らせする

#### ●財団の名称変更について

日本に公的骨髄バンクができて20年以上が経ち、「骨髄バンク」という名称も多くの方に知っていただけるようになりました。一方で骨髄バンクの運営主体である当財団の名称「骨髄移植推進財団」については、名称からは何をしている団体なのか分かりにくいという声がありました。そこで、昨年成立した「移植に用いる造血幹細胞の適切な提供の推進に関する法律」の施行によって、財団が骨髄・末梢血幹細胞のあっせん機関、日本赤十字社が支援機関として位置付けられることから、業務執行会議において財団の名称変更が検討されました。その結果、本年10月を目途に「公益財団法人日本骨髄バンク」に名称変更を行う方針が出されました。今後、3月の理事会、6月の評議員会での審議を経て、変更に向けて準備をしていく予定です。

#### ●平成25年度移植対策関係予算(案)の概要について

平成25年度移植対策関係予算(案)の概要が厚生労働省臓器移植対策室から発表されました。財団に関係する主な部分については以下のようになっています。「造血幹細胞移植医療体制整備事業」として、拠点的な病院の整備費用6,500万円が新たに計上されました。平成25年度については3ヵ所分となりますが、次年度以降、段階的に拡充される予定です。また、平成24年度の予備費により「末梢血幹細胞採取体制の整備」として、造血幹細胞測定装置の整備費用1億5,200万円が計上されました。10施設程度

(財団マンスリー JMDP (2月15日発行) より抜粋)

への導入となりますが、平成25年度においても保健衛生施設等設備整備費補助金のメニューとして継続実施される予定です。

なお、財団に対する国庫補助金については、前年度比約1,200万円の増額となりました。

#### ●造血幹細胞移植が世界で100万例に到達

WBMT(世界造血細胞移植機構)は、1957年に実施された世界初の骨髄移植から2012年12月までに造血幹細胞移植の件数が100万例に到達したと発表しました。

1957年にアメリカのエドワード・ドナル・トーマス医師が世界で初めて骨髄移植を実施し、1960年代には血縁間の骨髄移植が本格化、1973年にはアメリカで世界初の非血縁者間の骨髄移植が行われました。その後、1988年にはフランスで世界初のさい帯血移植が実施され、現在では、世界で年間5万例もの造血幹細胞移植が行われています。WBMTでは、今後も造血幹細胞移植で救命される患者はさらに増加していくと予測しています。

●非血縁者間末梢血幹細胞採取施設・移植診療科の認定について  
以下の施設が新たに非血縁者間末梢血幹細胞採取施設・移植診療科として認定されました。これまでに認定された施設は44施設です。

### 骨髄バンク NOW

◇非血縁者間末梢血幹細胞採取施設・移植診療科  
・採取施設/移植診療科  
新潟大学医学総合病院/同左 高度無菌治療部第一内科/小児科  
独立行政法人国立病院機構 名古屋医療センター/同左 細胞療法チーム  
日本赤十字社 和歌山医療センター/同左 血液内科

#### ◆日本骨髄バンクの現状(平成25年1月末現在)

	12月	1月	現在数	累計数	
ドナー登録者数	3,233	3,082	426,735	570,226	
患者登録者数	236	261	3,054	37,841	
移植例数	85	101	-	15,150	
■1月の年齢別ドナー登録者数(現在数)					
10代	2,787人	20代	71,625人	30代	152,751人
40代	159,618人	50代	39,954人		
■1月の20歳未満の登録者244人					
■1月の区分別ドナー登録者数: 献血ルーム/1,019人、献血併行型集団登録会/1,976人、集団登録会/4人、その他/83人					

注) 数値は速報値のため次月以降に訂正されることがあります。

平成24年7月より集計方法が変わりました。